



慶應義塾大学 外国語教育研究センター主催

## Academic Writing Contest 2015 応募要領

### A) 課題

特定のテーマは設定しない。アカデミック・ライティングのテーマとして適当と思われるものを、各自の興味に応じて選ぶこと。なお、小論文作成の際には、必ずいくつかの先行研究等を参照し、引用して、各自の専門分野に沿った Documentation Style で引用文献を明示すること。

**参考** 「アカデミック・ライティング」とは？

アカデミック・ライティングとは、あるトピックについて先行研究や、数のおよび量的なデータに基づいて、客観的に自己の主張を明らかにする論文を作成することを言う。先行研究の引用やデータによる学術的な裏づけを行い、研究課題に関して自分の言葉で読み手を納得させ、その新鮮な考えを展開させることが求められる。

### B) 応募資格

慶應義塾に所属する一貫教育校高校生・大学学部生・大学院生・通信教育課程生

### C) 応募規程

- ・論文の応募は1人1件のみとする。(同一人物で複数の応募があった場合、該当者の応募を無効とする。)
- 一 応募論文は以下の各項目に従い、MS-Word 等のワープロソフトにより英語で書き、提出すること。

#### (1) 原稿の体裁

(ア) 原稿設定(文字サイズ、フォント等)

- ・ 12ポイント
- ・ Times New Roman もしくはそれに相当するフォント
- ・ ダブルスペース(1 ページあたり 18~20 行相当)

(イ) 最初のページの一行目にタイトルを記載(氏名や所属の記載は禁止)

(ウ) 各ページにページ番号を振る

(エ) 序論、本論、結論という構成にする

(オ) 参照資料や参考文献は必ず出典を明らかにし、末尾にリストとして添付する。またインターネットからの引用の場合は URL とその取得日も記載すること。参考文献の記述の方法については各自の分野における標準の形式(APA, MLA, Chicago Style など)に従うこと。

※ (注) 参考文献リスト作成については、**J)** “執筆上の注意”を確認すること。

(カ) 小論文本文中での個人情報記載の禁止

※ (注) 氏名や所属、学籍番号(生徒証番号)は所定の参加申込書のみ記入すること。

(2) **語数と枚数** 枚数の制限は無いが、部門ごとに定められた語数の範囲内で小論文を作成すること。

高校生部門	1,500 語から 2,000 語	大学生部門	2,000 語から 3,000 語
大学院生部門	3,000 語以上	通信教育課程部門	2,000 語から 3,000 語

※ 参考文献のリストは小論文の文字数に含めない。

※ 脚注は小論文の文字数に含める。

※ 大学生部門のみ、応募数により“理系”・“文系”の分野に分けて審査する場合がある。



### (3) 提出書類

- a) 参加申込書(事務室窓口で配布。外国語教育研究センターWeb サイトよりダウンロード可。)
- b) 小論文

上記 a)b)共に、①Eメール添付、②窓口提出の2つの形式で提出すること。

#### ①Eメール添付の方法

- ・ Eメールに提出論文 と Eメール添付用参加申込書を添付して提出。  
送付先:<[works-flang@adst.keio.ac.jp](mailto:works-flang@adst.keio.ac.jp)>、件名(Subject):「AWC 応募」、メール本文中に必ず<1>学籍番号・<2>所属・<3>学年・<4>氏名(漢字)・<5>氏名(ローマ字)を記入すること。
- ・ CD-R 等のメディアによる提出も可能。その場合は、窓口で直接提出すること。  
※提出メディアは返却しません。USB フラッシュメモリ等によるデータの受け渡しは不可。

#### ②窓口提出の方法

- ・ 添付ファイルで提出した小論文を A4 用紙(片面)にプリントアウトし、左上をホチキス留めした、提出論文 4 部 と 窓口提出用参加申込書を窓口で提出。  
※ 参加申込書は、Eメール添付用と窓口提出用では異なるので要注意。

(4) 受付期間 2015年11月30日(月)10:00~12月4日(金)16:30【締切時間厳守】

(5) 受付開始前・終了後に応募された書類はすべて無効。

(6) 窓口提出先

外国語教育研究センター事務室窓口(日吉キャンパス:第3校舎2階 三田キャンパス:第1校舎1階)

※受付期間中の10:00~16:30の間に提出すること。

※郵送での提出も可能。12月4日(金)必着。(送付先は末尾記載)

### D) 賞

(1) 所長賞 賞状および副賞として賞金5万円(全応募者より1名、該当者なしの場合あり)

(2) 優秀賞 賞状および副賞として賞金2万円(部門別に各1名)

(3) 次席 賞状および副賞として賞金1万円(部門別に若干名)

※(2)および(3)については、高校生・大学生・大学院生・通信教育課程の部門ごとに選定。

E) 審査 慶應義塾大学の教員により厳正なる審査を実施

F) 結果発表 2016年1月下旬~2月上旬(予定) 外国語教育研究センターWeb サイト・キャンパス内掲示板など

G) 授賞式 結果発表時に入賞者へ連絡(会場:日吉キャンパス)

H) 参考文献 当センターWeb サイト<<http://www.flang.keio.ac.jp/>>に、参考文献一覧と過去の受賞論文を掲載。また、日吉キャンパス第3校舎外国語ラウンジにて過去の受賞論文を閲覧可能。

### I) その他

(1) 小論文は他のコンテストや学会、雑誌(電子ジャーナルを含む)等、公の場で未投稿・未発表のものに限って応募可能。

(2) 著作権は著者に帰属する。ただし、外国語教育研究センターは、主催するワークショップ等で応募論文を利用する際には出版または配布する権利を保有する。

(3) 外国語教育研究センターは受賞論文を当センターWeb サイトに掲載する権利を保有する。

(4) 提出書類の返却は不可。

(5) 過去に開催した「英語小論文の書き方ワークショップ」を収録したビデオを日吉キャンパス第3校舎内の外国語ラウンジで視聴可能。希望者は、日吉キャンパスの外国語教育研究センター事務室まで問合せること。

## J) 執筆上の注意

本コンテスト応募論文に限らず、レポート・論文の執筆にあたっては、書き方のルールを守って執筆すること。

- ・自己の主張文と他者の引用文は明確に分けて記載する。
- ・他者の主張を引用する場合は、必ず出典を明らかにし、参考文献リストに記載する。
- ・文言を引用する時は、誤字も含めて一字一句正確に引用する。
- ・引用・参考文献リストは、各自が使用する Documentation Style の方式に従って記載する。
- ・インターネットからの引用の場合、引用ページの URL と取得日を参考文献リストに記載する。
- ・インターネット上のフリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』や Web Log (ブログ)からの引用は認めない。

これらの執筆にあつたてのルールが守られない場合は、剽窃(盗作)とみなし、本コンテストの審査対象から除外する。  
また、明らかな剽窃(盗作)と審査委員会で認められた場合は、応募者が所属する学校・学部などの学校長や学部長などに外国語教育研究センター所長より通告をおこなう。

- ※ 近年、インターネットの普及によりネット上に発表されている研究論文をそのままコピー&ペースト(多少の手を加えたり、アレンジしたり)して論文を作成、提出することが増加傾向にあるが、この行為も剽窃(盗作)行為となる。他者の研究論文を引用する際は、必ずルールに従った記載を行うこと。

= 問合せ・応募先 =

慶應義塾大学 外国語教育研究センター AWC 担当

**E-mail:** works-flang@adst.keio.ac.jp **URL :** <http://www.flang.keio.ac.jp/> **電話:** 045-566-1031

**住所** 〒223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1

以上

# 外国語教育研究センター推奨 参考文献 List of References

## ◆ Publications

メディアセンター所蔵 状況	外セ	Title	著者	出版社
○	*	アカデミックライティング応用編 文学、文化研究の英語論文作成法	Andrew Armour, William Snell, 河内恵子, 松田隆美	慶應義塾大学出版会
○	*	アカデミックライティング入門 英語論文作成法	吉田友子	慶應義塾大学出版会
藤沢・芝共立のみ所蔵	*	英語小論文の書き方 英語のロジック、日本語のロジック	加藤恭子、Vanessa Hardy	講談社
○	*	英語論文すぐに見える表現集	小田麻里子、味園真紀 他	ベレ出版
○	*	英語論文に使う表現文例集	迫村純男、James Raeside	ナツメ社
○	*	英語論文によく使う表現	崎村耕二	創元社
○	*	英語論文表現事典	樋口真幸、Peter A. Goldsbury	北星堂書店
○	*	はじめての英語論文 引ける・使える・パターン表現&文例集	和田朋子	ずばる舎
○	×	A Guide to MLA Documentation (8th ed.)	Joseph Trimmer	Wadsworth Publishing
○	×	英語論文・レポートの書き方	上村 妙子、大井恭子	研究社
○	×	やさしく書ける英語論文	藤本 滋之	松柏社
○	×	Academic Writing for Graduate Students.(2nd ed.)	Michigan Series in English for Academic & Professional Purposes, C, Swales J & Feak.	Ann Arbor: University of Michigan Press,
○	×	Writing for Academic Purposes 英作文を卒業して英語論文を書く	タイム・スチュワート、編 田地野彰、デビッド・ダルスキー編	ひつじ書房
×	*	Basic Writing Second Edition	Joy M. Reid	Prentice Hall College
三田のみ(1st ed)所蔵	×	Dissertations and theses from start to finish : psychology and related fields (2nd ed.)	John D. Cone and Sharon L. Foster	American Psychological Association
○	*	English Grammar in Use with Answers (3rd ed.)	Raymond Murphy	Cambridge
1st Ed.はSFCのみ 2nd Ed.は三田のみ	*	First Steps in Academic Writing	Ann Hogue	Longman Pub Group
×	*	Foundations of Writing: Developing Research and Academic Writing Skills	Carolyn M. Spencer, Beverly Arbon	NTC/Contemporary Publishing Company
○	×	Grammar in Use: Intermediate: self-study reference and practice for students of English with Answers (3rd ed.)	Murphy Smalzer	Cambridge
○	×	Introduction to Academic Writing (3rd ed.)	Alice Oshima, Ann Hogue	Longman
○	×	MLA Handbook for Writers of Research Papers (7th ed)	Joseph Gibaldi	Modern Language Association of America
○	×	MLA Style Manual and Guide to Scholarly Publishing (3rd ed)	Joseph Gibaldi	Modern Language Association of America
○	×	MLA 英語論文の手引 第6版	Joseph Gibaldi(原著), 原田謙治(訳)	北星堂書店
三田のみ所蔵	×	On writing well : the classic guide to writing nonfiction (30th anniversary ed., 7th ed)	William Zinsser.	Harpercollins
×	*	Process of Paragraph Writing Student Book Second Edition	Joy M. Reid	Prentice Hall Regents
○	△	Publication Manual of the American Psychological Association (6th ed.)	American Psychological Association	American Psychological Association
○	×	The Chicago Manual of Style: The Essential Guide for Writers, Editors, and Publishers (16th Ed)	John Grossman	University of Chicago Press
○	×	The Elements of Style, Fourth Edition	William Strunk Jr., E.B. White	Longman Pub Group
×	*	The Process of Composition Third Edition	Joy M. Reid	Longman
○	×	Writing Academic English (4th ed.)	Alice Oshima, Ann Hogue	Pearson Longman
○	×	Writing research papers : a complete guide (14th ed.)	James D. Lester	Longman
○	×	Writing to Communicate (3rd ed.)	Cynthia A. Boardman, Jia Frydenberg	Longman

\* マークのあるものは日吉および三田キャンパス外国語教育研究センターにて閲覧可能 △マークのあるものは日吉キャンパス外国語教育研究センターにて閲覧可能

○マークのあるものは日吉メディアセンターに所蔵されている書籍

★メディアセンターで文献を検索する際はKOSMOSにTitleか著者名を入れて検索し、請求番号をメモして書架へいきましょう。  
(Edition(版)は上記のものより古い場合があります。)

## ◆ Web Pages

Modern Language Association (MLA) <http://www.mla.org>

APA Style Resources <http://www.psywww.com/resource/apacrib.htm>

The Writing Center at the University of Wisconsin-Madison <http://www.wisc.edu/writing/>

APA Online <http://apastyle.apa.org/>

The Chicago Manual of Style <http://www.chicagomanualofstyle.org/tools.html>